

滋慶大学院新聞

発行所 学校法人 大阪滋慶学園
滋慶医療科学大学大学院
大阪市淀川区宮原1-2-8
TEL.06-6150-1336
https://graduate.juhs.ac.jp/

第22号
発行責任者 橋本 勝信
発行日 2026年(令和8年)3月31日

公益社団法人大阪府看護協会 医療安全対策委員会の活動



公益社団法人大阪府看護協会
会長 弘川 摩子氏

公益社団法人大阪府看護協会は、保健師・助産師・看護師・准看護師からなる職能団体で、現在約5万人の会員からなっている。使命は、「人々の人間としての尊厳を維持し、健康で幸福でありたいという普遍的なニーズに応え、人々の健康な生活の実現に貢献する」とし、

- 教育と研鑽に根ざした専門性に基づき看護の質の向上を図る
- 看護職が生涯を通して安心して働き続けられる環境づくりを推進する
- 人々のニーズに応える看護領域の開発・展開を図る

当協会は、平成18年度の医療法改正により、医療機関における医療安全管理体制確保が法令上明確化され、診療報酬制度に医療安全対策管理加算が新設されたことを受け、医療安全管理研修と医療安全対策委員会の活動を開始した。医療安全体制の調査では多くの看護師が医療安全管理者として活動していたが、システム整備、人材育成、安全対策の導入、

研修運営などに課題を抱えており、支援の必要性が明らかになった。そのため平成20年度より年4回発行している「看護だより」で「医療安全通信」のコーナーを設け、情報提供を開始した。平成23年度からは11ある支部内のネットワークづくりを進め、年3～6回の交流会を通して各施設の取り組みや教育方法を共有した。平成27年度からは「医療安全交流会」と名称を改め、中小規模施設にも参加を広げた。

平成30年度診療報酬改定で「医療安全地域連携加算」が新設された際には評価方法に迷う声が多く、講演会の開催やQ&Aの掲載により理解促進を図った。令和元年には教材『医療従事者が知っておきたい基礎知識』を作成し、HPで公開するとともに音声付DVDも提供した。令和2年度以降は薬剤師、臨床工学技士、診療放射線技師も委員として参加し、多職種で検討できる体制となった。令和6年度には教材を「みんなの医療安全」として改訂し、「医療安全ポケットマニュアル」も作成した。

現在、交流会には203施設・延べ800名以上が参加し、相互ラウンドによる客観的評価や課題共有が進んでいる。医療安全管理者は相談先に悩むことも多いが、交流会は顔の見えるネットワークとして重要な役割を果たしている。今後も対象者の安全確保と安全文化の醸成に向け、継続して取り組んでいく。

皆さんもぜひ看護協会の交流会に参加していただき現場に活かす研究に取り組んでください。期待しています。

本学のカリキュラムを骨格に医療安全管理を多方面からやさしく解説する!

「医療安全管理学FIRST STEP」の発刊にあたって

我が国では、医療従事者だけでなく、医療系大学や専門学校の学生に対しても系統的な医療安全教育が求められています。そこで、医療安全管理学を専攻する滋慶医療科学大学大学院の教員を中心に、「医療安全」に関する基本的知識・考え方をまとめたのが本書です。本書は、医療従事者はもちろん、臨床現場での経験の少ない学部学生、専門学校生にも容易に理解できることを目的とした「医療安全」の入門書です。授業の教科書として、また自習書、副読本として気軽に読み理解できる内容・構成となっています。本書が医療現場や学生の皆様にとって「医療安全」に関する知識の修得に役立つことを願っております。(滋慶医療科学大学大学院 研究科長 和佐 勝史)



医療安全管理学FIRST STEP ～医療から介護・福祉まで～
編集:学校法人 大阪滋慶学園 滋慶医療科学大学大学院
2026年2月1日発刊 (株)滋慶出版 B5判 372頁
本体価格3500円(税込み3850円) 一か所送料770円
滋慶出版直販のみになりますので、本書の購入は大学院HPバナー
または左のフォームよりお申し込みください



2025年度修士学位論文公聴会

2026年2月14日(土)に本学視聴覚大講義室において2025年度修士学位論文公聴会が開催され、13名の学生がそれぞれの研究課題について発表しました。公聴会は、発表20分、質疑応答10分の時間配分で進行し、各自が在学中の研究成果についてスライドを駆使して発表しました。今後は、研究のデータを提供いただいた医療機関等へも成果を報告する予定です。

修士論文の作成にご支援・ご協力をいただいた関係者の皆様に改めて御礼を申し上げます。

修士学位論文テーマ一覧

- ◎介護老人保健施設職員の安全文化の意識調査
- ◎腎機能低下及び血液透析が結核患者の予後に与える影響
—結核病態・標準治療開始・栄養状態等を中心とした後方視的観察研究—
- ◎部活動地域展開における安全管理体制構築に向けた指導者の救急対応能力に関する調査研究
- ◎ICUにおけるインシデントレポートのSafety-II活用への試み
- ◎遠隔ICU支援施設の医療従事者側から見た遠隔ICUの現状と課題
- ◎高齢患者とのコミュニケーションに関する看護師のリスク知覚と関連要因の検討
- ◎三島医療圏における嚥下障害に対する食形態の実態調査と言語聴覚士からみた分析・検討
- ◎患者安全対策ルールの立案に看護師の立場が及ぼす影響の解明
- ◎施設および関連施設のバスキュラーアクセススコア18項目のシャント機能不全早期発見に対する有用性の検討
- ◎集中治療領域における臨床工学技士の業務拡大の実態と課題に関する調査
- ◎Z世代新人看護師指導における世代別価値観のずれの可視化
- ◎救急医療における医療訴訟を医療安全的立場からみた実態調査 一応召、転医、注意、説明義務を中心に—
- ◎看護師である医療安全管理者が医療事故対応の経験から得た実践知



医療安全実践教育研究会 第13回学術集会 報告

2025年10月19日(日)、「医療安全実践教育研究会 第13回学術集会」が滋慶医療科学大学大学院を会場に、オンライン配信も合わせたハイブリッド形式にて開催されました。「救急医療・集中治療におけるトピックスと医療安全」をメインテーマに、刻々と状況が変化する救急・集中治療における安全確保について、最新の知見や実践報告が共有されました。



まず、飯干泰彦大会長が「救急医療・集中治療における腸の重要性」と題して講演をされました。経腸栄養が腸の粘液層を維持するというバリア機能や、輸液のみの栄養管理(TPN)が免疫細胞の蛋白合成を抑制するリスクが説明されました。また、小児の虫垂炎疑い症例では超音波による精査で手術不要なリンパ節炎が鑑別できることや、膿瘍形成性虫垂炎に抗生剤による保存的治療が可能な場合があることも解説されました。

特別講演は、滋慶医療科学大学大学院研究科長の和佐勝史教授により「医療安全の視点から見た救急医療における栄養管理の重要性」をテーマに行われました。緊急入院の時点での重い栄養障害、不適切な栄養管理による感染症、転倒、臓器機能低下のリスク、リフィーディング症候群(再給餌症候群)の発生メカニズムと治療上の注意点が示されました。

一般演題は3題発表されました。1題目は医師事務作業補助者の組織化とジョブローテーションの試み、2題目はSpO2

センサ変更によるアラーム発生動向の分析、3題目は集中治療領域における管理栄養士による早期栄養介入とその効果に関する発表でした。

基調講演は、横浜市立大学附属市民総合医療センターの中村京太教授により、「救急医療・集中治療とレジリエント・ヘルスケア」をテーマに行われました。従来の「失敗を減らす(Safety-I)」に加え、状況に柔軟に対応し「成功を増やす(Safety-II)」の重要性が説かれました。特に救急・集中治療における医療チームの緊急で複雑なマターの連鎖、消防などとの連携、変化する状況のモニタリングと評価の連携など、安全のための柔軟性の意義が強調されました。続くシンポジウムでは、院内急変への対応、移植医療における多職種連携、夜間救急外来の業務プロセス分析などが発表が行われました。

本集会は、救急医療・集中治療において、栄養、レジリエンス、多職種連携といった多様な視点から医療安全を再考する、非常に意義深い機会となりました。

在学生からのメッセージ

一般社団法人 ダイアログス ポリフォニー
社会福祉士

金本 結稀さん(15期生)

私は現在、障害者の就労継続支援施設で支援員として働いています。2022年に社会福祉士として今の職場で働き始めてから、日々の業務の中で「どうすれば人は成長するのか」「根拠を持ってフィードバックするにはどうすればいいか」と考えるようになりました。利用者さんの能力を引き出す環境づくりを理論的に考えたいと思うようになったのが大学院進学へのきっかけです。

今の学校を選んだ決め手は、仕事を続けながら自分の関心を形にできる研究環境があったことです。職場には他にも大学院

で学ぶ同僚がおり、研究内容を共有し合いながら互いに応援し合える環境が、大きな支えになっています。

入学後は、現場での実践と研究を往還することで、仕事をより深く捉え直す楽しさを実感しています。修了後も日々の支援の中で見つけた課題を研究に活かし、論文や学会発表という形で発信し、長く研究に携わっていきたいです。実務と研究を両立させながら、より良い支援を追求し続けることが今の私の目標です。



認定看護管理者合格者からのメッセージ

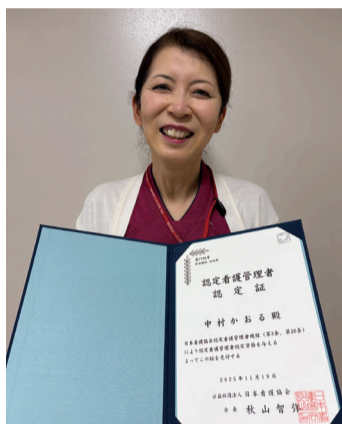
医療法人緑翔会 小松病院
看護部長

中村 かおるさん(10期生)

私が認定看護管理者の試験を受けたのは、大学院を修了してから3年経ってからです。

受審の要件を確認すると要件が変更になっていて、不足している単位があることに気がきました。私は受審するのを諦めようかと思いましたが、大学院の教授や先輩から受審することを勧められ受審しました。書類審査で不合格になると思っていたのですが、結果は合格でした。そこから試験までの1カ月、過去問題とテキストで勉強し、論述問題は「看護協会ニュース」を2年分読み込み、診療報酬改定などからテーマを予想し、論述できるように取り組みました。論述問題は予想が外れましたが、無事に合格することができました。

今後は認定看護管理者として、組織の発展と地域医療に貢献できるよう努めていきたいと思っています。



社会医療法人 大阪国際メディカル&サイエンスセンター 大阪警察病院
副看護部長

安藤 多佳子さん(13期生)

大学院では看護管理に関する科目を計画的に履修していきました。認定審査「要件2」履修科目の内容記載は、経営学概論や医療倫理学特論も看護管理に結び付けて作成しました。修了後は、過去問題、看護の将来ビジョン、医療体制を同期生と定期的に意見交換をしたことで課題が整理され論述の準備になったと感じています。今後は看護管理者として課題を俯瞰的に捉え、他職種と協働し業務改善や看護の質向上に寄与したいと考えています。2026年度からは審査方法は論述問題から客観式状況設定問題に変更となりますが、大学院で積み重ねた学びは確実に力となり大きな支えになります。皆さんの挑戦が実を結ぶことを心から願っています。



医療法人社団蘇生会 蘇生会総合病院
医療安全管理室室長/副看護部長

小森 健吾さん(13期生)

私は当初、医療安全管理学というより医療経営管理学に関心を持ち、本学へ入学いたしました。研究も医療経営管理領域で進めてまいりましたが、必修・選択科目を通して医療安全管理を体系的に学ぶ中で、その重要性を改めて認識いたしました。本学ならではのシラバスを通じ、多くの学びを得られたことは、現在の実務にも大いに活かされています。

修了後は要件2での書類審査に向け、教授や同期と相談しながら準備を進め、無事通過することができました。さらに同期2名と2週に1回の勉強会を開催し、直前期には毎週オンラインで学習と情報共有を重ね、全員で合格を果たすことができました。

今後は大学院で得た知見と研究成果を基盤に、理論と実践を統合した看護管理を実践し、地域医療と組織の発展に貢献してまいります。



医薬品等製造実践教育研究会「GMP初級講座2026」

本学では、2015年より医薬品等製造に関する実践的な教育とその研究を目的に、医薬品等製造実践教育研究会を立ち上げており、毎年5月～7月にGMPを基礎から学ぶ『GMP初級講座』を開講しています。この講座は、企業の新入者教育、製造・品質管理者の知識整理、医療機関製剤部署や製薬企業に就職を希望する学生の基礎教育支援を目的とし、6～7講座×3回のビデオ講座を中心に、網羅的、実践的なGMPの基礎知識を丁寧に解説しています。各回演習問題を実施

して理解を図り、質問には各講師より丁寧な回答を行って参加者全員に共有し好評を得ており、全講座を受講し演習の成績が基準に達した方には本学より修了証が交付されます。今年もビデオ講座『GMP初級講座2026』を開講いたしますので、本学HPからお申込みください。



学費の負担が軽減!

厚生労働省「専門実践教育訓練給付金制度」の指定講座となっています

[2027年度における本制度の適用は2026年秋頃に判明予定です。本大学院HPでご確認願います]

専門実践教育訓練給付金制度は、働く人の主体的で中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とした雇用保険の給付制度で、2018年4月以降の本学入学者のうち所定の要件を満たす場合に給付金が支給されます。本学の入学前に手続きが必要ですので、住居所のハローワークにご相談ください。

【給付額】



順調に単位を取得し2年間で修了、かつ雇用保険の一般被保険者として雇用された場合に限り。また、専門実践教育訓練給付金制度が拡充され、訓練修了後に賃金が5%以上上昇した場合、訓練経費の10%分(年間上限8万円)が追加給付されます。

【支給対象者の要件】

雇用保険の被保険者として、支給要件期間が3年以上ある方、現在は雇用保険の被保険者ではないが、離職後1年以内でかつその前に支給要件期間が3年以上ある方。初めて教育訓練給付の支給を受ける場合は、支給要件期間は2年以上あればよい。過去に教育訓練給付金を受給した方などは要件を満たさない場合があります。

オープンキャンパスのご案内

オープンキャンパスでは、対面又はオンラインにて本学の特徴や背景についての説明、カリキュラム、入試制度の案内のほか、講義の体験ができる模擬授業も実施しています。また、修了生によるメッセージもご覧いただけます。入学後の履修科目の選択方法や研究テーマについての相談、また、仕事との両立の仕方など、個別に相談できます。入学を検討されている方はぜひオープンキャンパスにご参加ください。

オープンキャンパスの流れ

- | | | | |
|-------------------------------|----------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| ① 全体説明 | ② 模擬授業 | ③ 修了生メッセージ | ④ 個別相談 |
| 本学の特徴や医療安全管理学分野を学ぶ意義などを説明します。 | 実際の講義を通して、実践的な講義を体感してください。 | 入学動機や修士論文作成までの流れなどについて修了生が説明します。 | 仕事と学びの両立方法やカリキュラム、学修支援など、個別にご相談に応じます。 |

個別相談会・授業見学も随時行っております。
お申し込みは本学ホームページ、またはメール、電話でお願いします。

編集後記

この冬は記録的な小雨・多照でした。3月下旬現在、琵琶湖の水位は-36cmほどこの時期としては低く、河川にもいつもの流れが戻っていません。医療や介護の現場では、治療やケアはもちろん、衛生や感染予防など安全のためにも、日々大量の水が使われています。水不足に対しては何重もセーフティネットがかけられていますが、昨今の気候変動からすると、現場に必要な水の安定的な確保が課題になっていくのかもしれない。

大学院事務局から

事務局への連絡はメールアドレス jim@juhs.ac.jp または
電話06-6150-1336(火曜～金曜10時～21時、土曜10時～19時、日祝・月曜休)